

Fig. 8. Hardness-tempering temperature curves after various quenching.

関係を検討した。そのまとめとして熱浴焼入における熱浴保持時間と焼入後の組織（未溶解炭化物をのぞく）との関係を180°Cと150°Cの浴温についてほぼ定量的に図示したのがFig. 9である。

図に見るように、マルテンサイト域の熱浴焼入における組織変化は、熱浴浸漬の初期にオーステナイトの一部がマルテンサイト化するが、その後の恒温変態による下ベイナイトの生成およびそれによるオーステナイトの安定化などは下ベイナイト域における恒温変態と全く同様であり、適当な恒温処理条件の選択によつてオーステンパーのものとはほぼ同じ組織が得られる。

終りに本研究の遂行に際し終始懇篤な御指導を賜つた恩師名古屋大学武田修三教授に厚く感謝の意を表す。

また実験に御便宜をいただいた本学堀田秀次教授に深謝する。

(昭和33年5月寄稿)

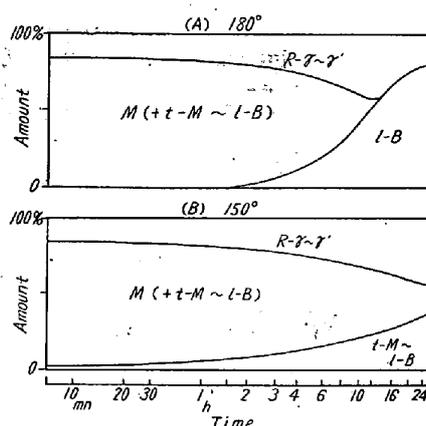


Fig. 9. Variation of matrix structures after hot-bath quenching at 180° or 150°C, followed by oil quenching, with different holding times in hot-bath.

文 献

- 1) 立川: 日本金属学会誌, 21 (1957), 1-11, 4-203
- 2) 武田, 岩間, 山本, 平野: 鉄と鋼, 44 (1958), 1107
- 3) M. Cohen: Trans. A.S.M., 41 (1949), 35
- 4) 武田, 花井: 日本金属学会講演 (1949, 11月)
- 5) 武田, 深瀬: 日本金属学会講演 (1949, 4月: 1950, 4月: 1951, 4月)

正 誤 表

第44年10月号記載“高炭素鋼の黒鉛化におよぼす各種作用因子の影響について(その1.)”中下記の如く訂正す。(著者)

頁	行	誤	正
1185	左上より6	Photo. 4 A →	Photo. 4 B
1185	左上より9	4 B →	4 A
1185	Photo. 4 説明文	4A, Lamellar →	Spheroidal
〃	〃	4B, Spheroidal →	Lamellar